

今日のキーワード『ブラック・フライデー』は今年も好調な見通し

米国では、毎年11月の第四木曜日がサンクスギビングデー（感謝祭）の祝日で、この感謝祭翌日から12月24日のクリスマス・イブまでの期間が年末商戦となります。年末商戦のスタート日である感謝祭翌日の金曜日は、毎年大規模なセール期間の初日となり、小売業者の売上が増えて黒字となることから『ブラック・フライデー』と呼ばれるほか、翌週月曜日は「サイバー・マンデー」と言われ、オンライン商戦のスタートとして注目です。

ポイント1

『ブラック・フライデー』には約1億6,400万人がお買い物！

翌週月曜日の「サイバー・マンデー」にはオンライン商戦がスタート

- 全米小売業協会（NRF）によると、約1億6,400万人の米国の消費者が『ブラック・フライデー』を含む週末に買い物をすると回答しています。
- また、『ブラック・フライデー』の次の月曜日は、この間の週末にお店で見た商品を会社のパソコンやスマートフォンなどを通じて注文する人が多いことから「サイバー・マンデー」と呼ばれ、オンライン商戦のスタートとして注目されます。今年は、年末商戦の買い物をオンラインで行うとする回答の割合がこれまでで最も高くなりました。

ポイント2

年末商戦の過去平均を上回る好調さを予想

1人当たり支出は過去最高更新の見込み

- NRFは、今年の年末商戦の売上高は前年同期比+3.6～4.0%の約6,788～6,820億ドルと予想しています。米国の年末商戦は、リーマン・ショックのあった2008年は前年の実績を下回りましたが、それ以降（2009～2016年）は平均で同+3.4%で増加してきており、今年はこの平均を上回る好調となりそうです。
- 年末商戦期間中の1人当たりの支出予定額は前年比+3.4%の約967ドルと、過去最高だった2015年の約953ドルを上回る見込みです。このうち、608ドルほどが贈り物に充てられると見られています。商品別では、洋服やアクセサリー、ギフトカード、書籍などの人気が高いようです。



今後の展開

良好な内外景気を背景に好調な個人消費が見込まれる

- 米国経済は2017年7-9月期の実質GDP成長率（速報値）が前年比+3.0%となったほか、雇用も順調に拡大しています。今年は暖冬が予想されていることから冬物商品が伸び悩む可能性はあるものの、良好な内外景気を背景に、米国では今年も好調な年末商戦が予想されています。個人消費は米国経済の中でも約7割を占めており、好調な消費に支えられて今後も米国経済は堅調な推移となりそうです。

ここも チェック！

2017年11月 6日 堅調に推移する米国の雇用統計（2017年10月）

2017年10月30日 米国のGDP成長率（2017年7-9月期速報値）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。